

英語が好きになる英文法

[In Touch with English through Grammar]

角 岡 賢 一
デイヴィッド・ダイクス
共 著

英 宝 社

まえがき

本書は、基本的な英文法を一通り身につけるように編集しました。対象としては、初級から中級までの学習者を想定しています。英文法を体系的に学んでいくことによって、次の段階に進むための足がかりにしてほしいと希望しています。

私たちは日頃、なに不自由なく母語を使って暮らしています。しかし外国語を学ぶとなると、長い間苦勞して勉強してもなかなか上達しないように感じます。この原因については言語学者があれこれと研究していますが、本当のところはよく分かっていません。本書では、日本語と英語の文法を比べながら学習を進めるという方針の下に章を組み立てました。自然言語というのは、共通点と相違点が入り交じっています。例えば、形容詞と副詞は日本語では活用がある・ないという点で文法的にかなり異なっているものの、英語では原級・比較級・最上級と変化するなど大いに共通点が認められます。その他の品詞については、動詞や名詞が日本語にも英語にも共通しているなど、原則的な面で共通性があります。英語の不規則動詞は、日本語ではサ行変格活用（「する」）やカ行変格活用（「来る」）のような別格の活用をする動詞と共通点があると言えるでしょう。ところが細かい面では、英語にある可算名詞と不可算名詞の区別、単数形と複数形など日本語話者の感覚ではわかりにくいことも多いでしょう。

英語理解の一步として、日本語文法と比べた文法理解から入ってみてください。それは同時に、日常では意識することの少ない、日本語文法について再認識することにも*がらと思います。このように、今まで無意識だったことに気をつけて言葉そのものに興味を持てば、外国語学修にも意欲が湧いてくるのではないのでしょうか。本書が、そういう意味で言語に対する興味の一歩になれば著者にとってこれ以上の喜びはありません。

最後になりましたが、本書刊行に際しては英宝社の宇治正夫さんにお世話になりました。ここに記して、感謝の意を表します。

2008年8月

著者記す

目 次

Drill 1	単語と文の成り立ち	7
Drill 2	語 順	10
Drill 3	句・節・文	13
Drill 4	名 詞	16
Drill 5	数	19
Drill 6	be動詞と一般動詞	22
Drill 7	目的語と補語	25
Drill 8	否定文、疑問文	28
Drill 9	動詞の時制と助動詞	31
Drill 10	形容詞と副詞、感嘆文	34
Drill 11	比 較	37
Drill 12	前置詞、接続詞	40
Drill 13	受動態（受け身）	43
Drill 14	関係代名詞	46
Drill 15	関係代名詞その2、関係副詞	49

Drill 1

単語と文の成り立ち

自然言語は、さまざまな単位から成り立っています。ごく大まかに言えば、文－文節・句－語－形態素（接頭辞・語幹・接尾辞）という単位が多く of the 言語で認められると考えられます。

1 英語の品詞

日本語も英語も、文を細かく分解していくと「語」という単位に分けることができます。語は、その形や文での役割によっていくつかの「品詞」に分類されます。

英語の伝統文法では「8品詞」に分類してきました。次の表を埋めましょう。日本語の名詞には、英語の2つの品詞が対応します。

日本語の品詞	英語の品詞	機能
動詞		
形容詞		
形容動詞	直接には対応しない	英語では形容詞に相当する
名詞	/	
接続詞		
連体詞	直接には対応しない	「この」「その」などの指示詞
副詞		
感動詞		
助詞	preposition（前置詞）	文法的格を表示する
助動詞	動詞に含まれると考える	可能、推定、義務などの意味を表す

英語の品詞名

noun adjective verb interjection conjunction adverb pronoun

共通する機能

人や物の名前、語句や文のつなぎ言葉、用言（動詞など）を修飾する、物事の性質や状態を表す、挨拶や「あっ」という咄嗟の言葉、動作・動きを表す

2 単語の成り立ち

英語の単語は、ある意味で漢字の部首のように「意味を表す部分が組み合わさって構成

されている」と考えることができます。次の unfortunately 「不幸にして」という例を見ましょう。

接頭辞	+	語幹	+	接尾辞
un	+	fortunate	+	ly
不		幸		にして

接尾辞というのは品詞に関わってきます。例えば形容詞を副詞に転換するには-lyという接尾辞を付けることが圧倒的に多いのです。左の例で形容詞 unfortunate は「不幸な」という意味です。副詞 unfortunately となると「不幸にして、不幸にも」と動詞や文全体を修飾するようになります。次の表で「 」に日本語で意味を書き入れて、確かめておきましょう。

品詞	語幹	否定
形容詞	fortunate 「 」	unfortunate 「 」
副詞	fortunately 「 」	unfortunately 「 」

それでは、un-以外の否定の接頭辞を見ておきましょう。次の表に、それぞれの形容詞に付く接頭辞を選んで書き入れましょう。その接頭辞を付けてできた語の意味も書きましょう。ただし in は、語幹形容詞の綴りに合わせて il-, im-, ir-と変化することがあります。

否定の接頭辞	形容詞の語幹	意味
	kind	
	equal	
	predictable	
	honorable	
	leading	
	understood	
	numerable	
	sensible	
	legal	
	mortal	
	regular	

[un, dis, mis, in]

3 主語、動詞、目的語、補語

日本語でも英語でも、文は「誰かがなにかを～した」という要素で成り立っています。「誰かが」を主語、「なにかを」を目的語、「～した」を動詞と分類します。日本語では、主語と目的語はそれぞれ「が、を」という格助詞で表示されます。英語では人称代名詞にI, me, he, him, she, her, they, themというように主格と目的格の区別があります。

また、下の問題で(4)、(5)、(6)のようにbe動詞(am, are, is, was, were)の次に位置するものを補語といいます。数式A=Bに当てはめてみると、Aが主語、「=」がbe動詞、Bが補語です。

1. 次の英文で、下線の語を日本語にしたときの格助詞に留意しながら日本語に訳しましょう。

(1) Beethoven thought of presenting his third symphony to Napoleon.

(2) The Nobel Prize committee decided to award Masatoshi Koshiha the prize for physics.

(3) Safety must be given absolute priority in questions of traffic control.

(4) I am a student in the School of Economics.

(5) You are a person who can be trusted.

(6) Marie Curie was one of the greatest chemists of the early 20th century.

Drill 2

語 順

1 修飾語の語順

1. 次の英文は、どれも動詞leaveを使っています。英文の意味を考え、下線の語が主語、動詞、目的語、補語、修飾語のどれか書き入れましょう。

(1) We left for Paris early in the morning. []

(2) The guest was left unattended for half an hour. []

(3) Mozart left his home city of Salzburg and never came back. []

(4) Father left us a small amount of money after his death. [] []

(5) Don't leave the door open. [] []

2. 英単語を並べ替えて、日本文の意味を表す英文を作りましょう。

(1) 彼女たちはいろいろな楽器を弾くのが得意だ。

[They instruments playing good are various at].

(2) つよしはいつも鮓を食べるのが好きだ。

[Tsuyoshi sushi to eat always likes].

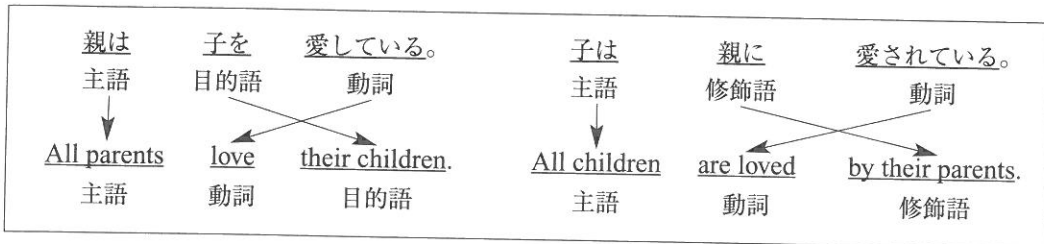
(3) 韓国の有権者は李明博氏を大統領に選んだ。

[Voters in South Korea Mr. Yi Myongbaek president elected].

- (4) 部屋はいつも鍵をかけておかななくてははいけない。
[your room locked keep must You always].

2 目的語の語順

日本語と英語では、主語や動詞、目的語などの語順が大きく異なります。上下に並べて、比べましょう。



日本語は、常に動詞（または述部）が最後に置かれます。それに対して英語では、動詞は主語の次に位置します。

3. 日本文の意味を表すように、単語を並べ替えて英文を完成させましょう。

- (1) 猫が鼠を追いかけていた。

[Our cat a rat chasing was].

- (2) 早起きの鳥は虫を捕まえる（「早起きは三文の得」という^{ことわざ}諺）。

[The the early bird worm catches].

- (3) なにかお飲みになりますか。

[anything to drink you like Would]?

- (4) 昨晚、その本を読み終わりました。

[last night the book reading finished I].

- (5) 君にこの地図をあげよう。

[you this give will map I].

- (6) フランスはアメリカに自由の女神を贈った。
[France America the Statue of Liberty presented to].
-

3 補語の語順

「これは本です」の「本」を文法用語では補語と呼びます。「これ=本」と数式で表した時、等号の後に位置します。英語では、「主語+be動詞+補語」(a)というように並び、数式と同じ語順になります。また「主語+動詞+目的語+補語」(b)の語順になることもあります。

a. <u>These</u>	<u>are</u>	<u>books.</u>	b. <u>We</u>	<u>call</u>	<u>her</u>	<u>Tomoko.</u>
主語	動詞	補語	主語	動詞	目的語	補語
「これらは本です」			「私たちは彼女を <u>朋子</u> と呼ぶ」			
補語			補語			

4. 日本文の意味を表すように、英文を考えましょう。

- (1) ナンシー、こちらは私の母です。
-
- (2) この時計はスイス製ですか。——いいえ、違います。(スイス：Switzerland)
-
- (3) 警察は彼を第一容疑者と見なした。(第一容疑者：the prime suspect、見なす：consider)
-
- (4) 電灯を点けっぱなしにしておいてはいけません。
-